

平成28年は転換期…話題その3

故きを温ねて、新しきを知る
〜帯広葵学園のあしあと49〜

学校法人帯広葵学園

理事長 上野 敏郎

平成28年は、帯広葵学園の歴史でいうとホップ、ステップ、ジャンプの3段階の中の、ステップからジャンプへの異動期だと言えます。

具体的には、帯広葵学園の始まりは昭和39年ですが、この50年を節目として文部科学省管轄の幼稚園から内閣府管轄の認定こども園への移行があります。幼稚園は3歳からの受け入れですが、こども園は0歳からの受け入れを可能とします。この決断が、現在の帯広葵学園の基礎づくりにつながっているのです。

しかし、帯広葵学園は3歳時以下の受け入れをすぐには選ばず、3歳児以上の幼稚園づくりの道を選びました。これは、3歳以上と以下ではその保育のあり方に大きな違いがあると考えたからです。

しばらくは、幼保連携型認定こども園を念頭に置きながらも幼稚園型認定こども園としてこの制度の活用方法を熟知することに努めることにしたのです。

そこで、帯広の森幼稚園とつつじが丘幼稚園の園舎の増築工事に着手し保育環境の整備が始まったのでした。

あれから5年が過ぎ6年目に入りますが、現在は目標に向かう途上にあると言えます。

「光る泥だんご」事業を各園で開始（平成28年）



元気よく歌う卒園児。式では新しい園歌が披露された

新しい園歌 元気に

【喜報】4月から認定こども園に移行する緑陽台保育園（未開園予定）で18日、卒園式が営まれ、卒園児が入学園児84人とともに新しい園歌を披露した。

来月から認定こども園 緑陽台保育園

〈緑陽台保育園園歌〉
1. 緑の大地に、まじり光
たぐさるく、歌うよ
元気がいい歌うよ
僕らの声がけける
緑陽台保育園
2. 青い空に、まじり光
明く照らす、まじり
力いはいま、まじり
僕らの笑顔あふれる
緑陽台保育園
3. 優しい心、まじり光
お手につないで遊ぼう
僕らの未来へ
緑陽台保育園

作曲は菅さん 職員の思いを詩に

新しい園歌は、緑陽台保育園の職員の思いを本園園長が詩にまとめ、系列のつつじが丘幼稚園（帯広）元長の菅野さん（53）が作詞した。菅野さんは帯広市立小中学校で音楽を教え、市内小中学校の校長を退職後、同幼稚園の園長を務めた。これまで同幼稚園歌や帯広南町中学校歌などの作曲を手掛けた。園歌は昨年10月に完成し、開園した12月からの練習を重ねてきた。この日は卒園式と新入生の入園式を兼ねた卒園式で、園児は元気に歌う姿が印象的だった。園の歌は「家の大地」という詩が始まりで、ゆたかとおおらかな旋律をつた、時にめづられた思いが子どもたちに伝わるのが大事。楽し歌うていて、それが良くなったと話していた。同園は今年4月、町から学校法人帯広葵学園が運営委託となり、4月1日から認定こども園として、同園緑陽台保育園となり、幼稚園部門で12人を受け入れる。（園村真生）

泥だんこの元玉に漆喰をぬり、口の丸い瓶等を使用して凹凸がないように磨いていきます。乾かしては塗り重ね、表面が綺麗になったら、子ども達の好きな色の絵の具を混ぜた層で更に磨いていきます。

作り方は同じようでも、出来上がりはそれぞれで全く異なる世界に一つだけの、自分だけの光る泥だんごが完成します。

例年、帯広図書館にて子ども達が作った泥だんごを展示いたします。今年度の開催につきましては、緊急事態宣言の状況を考慮し、ホームページ等で改めましてお知らせ致します。